（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2670300447		
法人名	社会福祉法人　七野会		
事業所名	生活支援総合センター姉小路　グループホーム姉小路		
所在地	京都府京都市中京区堀川通り姉小路下ル姉東堀川町76		
自己評価作成日	平成25年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2670300447-00&PrefCd=26&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「共に」暮らす事をキーワードに、地域の商店街での買い物をして調理や家事を行っている。お地蔵さんのお参りや地蔵盆、商店街の夜市や学区の運動会など、地域の活動にも日常的に参加をしている。子育て世代からベテランまで幅広い年齢のスタッフがいることで援助の幅ができている。街中でアクセスしやすく、ご家族や知人などの面会が多い。ご家族との関係づくりを深め、家庭的な雰囲気のなかでの援助をめざしている。主治医の協力のもと、ターミナルケアにも力を入れており、ご逝去後もご家族とのつきあいができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に歩む…」という理念の下、地域の一員であることを皆が意識し、日々の生活において地域との交流を図りながら、普段通りの暮らしができるように努めている。 半期毎にまとめ会議をして理念の確認，共有，実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の三条会商店街での買い物、お地蔵さんの掃除、季節の行事（地蔵盆，七夕夜市，城巽学区運動会）やすこやかサロンへの参加など積極的に交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて事業所の役割などをアピールし、相談の窓口となっている。 また、地域の方を対象にした認知症サポート講座を開催した。 日常の活動として積極的に地域に出ていくことで、自然な形で認知症に関する情報を伝えられている部分がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取組みや現場の状況など、隔月の会議の都度報告し、サービスの向上に向けて意見やアドバイスを受けている。 また、地域の情報を得る場ともなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも出席していただき、情報を共有して連携が取れている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間で意見交換しながら、意識して拘束のないケアを実践している。 夜間は防犯のため１階玄関とGH玄関を施錠しているが、日中は開錠したままである。居室出入口に鍵はなく、ベッド柵の位置など状況に応じて職員間で話し合い、見守りを強化するなどの対策を立てている。		

京都府　グループホーム姉小路

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入居者の観察を日常的に行い、小さな異変でも報告し、チームケアの中であらゆる虐待がないよう職員同士が協力し合っている。虐待はあってはならないことと職員それぞれが認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用している入居者もおられ、制度に応じて関係機関と連携が取れている。 また必要と思われる場合は活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前の面接において不安や疑問点を解消し、入居後も改定等あれば文書を配布し都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会，家族懇談会やケース会議、運営推進会議の際に意見，要望を聞き取り、職員間で情報を共有して運営に反映させている。家族との何気ない会話から思いを汲み取れるよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務内において、またヒアリングを実施したり、ユニット会議やGH全体会議においても運営に関しての意見交換をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ヒアリングにて直接個々の職員より聞き取りをする機会を持っている。 日々の業務の中で状況を把握して職員同士協力し合い、よりよい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に職員の経験年数に応じた研修制度があり、また外部の研修案内も紹介しており、参加できる機会を設けて個々のスキルアップを奨励している。資格取得に向けての勉強会を開催している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGHで同種会議を開いて意見交換したり、他施設との相互訪問や研修の受け入れもしている。 老福連にも参加して交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずご本人のお話をうかがうこと;好きなこと、嫌いなこと、困っていること、不安なこと、ご希望などご本人の口から直接聞き取り、居場所を作ることから始め、また家族からも聞き取りを行い情報収集してよりよい援助につなげている。 そして、日々の生活の中で知り得た情報をその都度職員間で共有することで安心して暮らしていただける関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やケース会議時など、折に触れ話をする機会を持つことで、ご家族の気持ち，思いを受け止めるよう努めている。 ご家族とも馴染みの関係を築き、口に出し難いことがないか常に意識を持って対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずGHの生活に慣れていただけるよう、何を一番に求められているか見極め、情報を交換、共有し合う中で、必要な支援を見つけ出し、サービスに反映できるようにしている。例えば、訪問リハビリの利用など。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の方針である「共に食べ、共に働き、共に…」をモットーに、できることは一緒に行い、また教えていただき、日々の暮らしを充実したものにして、お互いが自分らしく共に生きていける関係を築けるよう努めている。入居者と同じ目線，同じ立場に立ち、『家族』のような関係を築くよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでなく、家族と共にご本人を支えていくことを説明し、受診や行事参加を一緒にしたり、面会の機会を増やせるような雰囲気作りを心がけている。 ご家族の心情を知り、ご家族の生活も大切にしていただけるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援	家族だけでなく親戚や友人の方々の面会も		

京都府　グループホーム姉小路

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にし、年賀状を出したりと、これまでの馴染みの関係を保てるようにしている。 地域密着型の利点として、それまで生活してこられた場所や環境を大切に、心穏やかに暮らせるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士対立することもあるが、お互いが良好な関係を保ちスムースに交流できるよう、必要時は職員が間に入りトラブルを未然に防ぐように努めている。 一緒に協力して作業する場面を設定したり、一緒にゆっくり過ごせる時間を作るなど馴染みの関係作り，雰囲気作りをして、お互いの関わりを大切にしている。 自然な形で入居者同士が会話できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、入院先にお見舞いに行ったり、家族会で看取りについて体験談を話していただいたり、記念誌への寄稿や式典，会議への出席をしていただいたりと関係が続いている。 初盆のお見舞いをし、礼状を返して下さっている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や会話からその人となりを掴み、情報交換する中でケアプランを立て、実行している。職員一同相手の立場に立って考える姿勢を持っている。 常に話を聞くようにし、毎月モニタリングをしてニーズの把握に努めケアプランの見直しをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、他のサービス機関からできる限りの情報収集をし、ケアに活かしている。 センター方式の書式への記入をお願いしたりもしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で一人ひとりを観察し、状態を把握、個別に記録を残し、情報としてチームで共有し合えている。 日常生活表や排泄・水分摂取チェック表など活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングとユニット会議で職員同士の意見を出し合い、ケアプランに反映させて、現状に沿った援助に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や伝達ノートを活用し、また医療機関やリハビリからの情報も含めて、プランの見直し、実践に役立てている。 個々のケース記録では、具体的な様子と言葉を残すように意識している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスと連携しデイでの行事に参加したりと相互の交流を図り、また七夕夜市など地域の行事の際には、居宅やHHも含めてGHだけの枠に囚われない事業所一体となった活動に取り組んでいる。 個別外出の実施や1階サロンでの催しものにも参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に根差した施設として、町内の行事に参加したり、三条会商店街で買い物をしたり、公園を散策したりと地元の人々とも馴染みの関係が持てるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については入所時に確認し、提携しているクリニックより1回/2Wで往診がある。また診療時間以外は24h体制で電話にて状況報告し指示を仰ぐことができている。皮膚科や歯科、整形外科など必要であれば専門の医療機関への受診も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GHに看護師は常駐していないが、提携クリニックへの連絡は随時可能な環境にしており、必要に応じて適切なアドバイスや看護を受けられている。 緊急時等、デイの看護師に相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行くように努め、その際病院関係者に声を掛け、関係作りをしている。 ご家族と共にカンファレンスに出席し、状況把握に努め、早期退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	さらなる高齢化，重度化が進んでいるので、ケース会議時や面会時においてターミナルについてご本人やご家族の意向を確認し、またGH職員の思いも伝えて、共にその人らしい最期の迎え方を考えている。 ご家族の看取りに向けての気持ちの変化を大切に受け止め、クリニックのアドバイスも受けながら、終末期のケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応に関してはマニュアル化されており、救急救命の講習なども受けている。突発事項に落ち着いて対処，行動できる実践力が身に付いているかについては個人差があるが、心づもりはできている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1回/月の防災自主点検を実施している。また、消防署の協力の下、地域の方々にもご参加いただき避難訓練を実施し、入居者と共に消火訓練にも参加している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ありのままをまず受容し、声掛けの仕方に配慮している。 言葉が乱れないように常に意識し、その反面言葉が硬くならないようにしている。 作業後の感謝の声掛けや入室時のノックを忘れない。 フロアの職員同士の会話;情報伝達(排泄状況に関してなど)の中で配慮に欠けた対応とならないよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で選択肢を提示し、ご自分で選んでいただけるようにしている。 例えば衣服を数点の中から選ぶ、献立の希望を聞くなど。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしたいとは思うが、体制上の都合で希望に添え切れていないのが現実。 ご自分から希望を表出することが困難な入居者もおられ、職員側からいろいろ提案させていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や色彩、髪形などその人らしさを大切にしている。 こだわりの化粧品を継続して使用されている。 メイクのお手伝いをする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立決め、買物、調理、片付けと食事の一連の流れの中で、できるところは積極的に参加していただいている。 食べ難い場合やアレルギーがある場合は代替品を準備している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューを他の方と変えることなく、刻んだりトロミをつけたりすることで安全に食べられる工夫をし、チェック表に摂取量の記録を残している。 好みの飲み物を用意し水分摂取を促している。 状況によって介助したり、補食もしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時，就寝時のケアは行えているが、昼食後の口腔ケアは徹底できていない。 一人ひとりの状態に合わせて歯ブラシ以外のケア用品(トゥースウェッテ、舌ブラシ、口腔ケアガーゼなど)も使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、排泄パターンを把握できるようにしている。 おむつは補助的なものと捉え、定期的にトイレ誘導することで自立に向けた支援をしている。 尿量に合わせてパットを使い分けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり、繊維質の多い食材を使ったりと食事に工夫をこらしている。 毎朝きなこヨーグルトを食べていただく。 日中は体操など運動する機会を作っている。 主治医と相談して服薬/座薬による排便コントロールを行い、負担の少ない排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体制上個々に添った入浴はできていないが、入浴の時はゆっくりとくつろいでいただけるよう心掛けている。 また、全身の皮膚状態の把握に努めている。 ハード面で一般的な家庭風呂のため、状況によってはシャワー浴対応となっている。 柚子湯や菖蒲湯をして季節を楽しんでいただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具選びや室温調整をし、室内の環境を整備している。 日中は椅子，ソファー，ベッド臥床と状況に応じた場所で休んでいただいている。 夜間は個室で静かな環境を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の自己管理が困難な入居者が多く、職員が薬の内容を理解し、服薬介助を行っている。 副作用までは把握し切れていない部分があるが、変化があればすぐ主治医に連絡する体制が取れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除，炊事，洗濯といった家事などの役割や縫い物，編み物，文字書きなどできることを促しているが、全員が自発的にされる状態ではなく、職員と共に取り組む必要がある場合は一緒にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	三条会商店街への買い物やお地蔵さん参り、屋上での外気浴を日頃からしており、計画を立てて一泊旅行や日帰り旅行にも行っている。 季節によって花見や祇園祭などお祭り見学にも出かけている。 ご家族参加も歓迎しており、個別外出で外食や法事，墓参り等に出かけられている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理することが難しい方が多く、ご家族よりお小遣いとして預かったお金を事業所で管理し、個別に出納帳をつけている。 ご自分で所持できる方は、お賽銭を出したりおやつを購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば随時対応し、季節の挨拶状や礼状が出せるように支援している。 必要によっては職員が代弁、代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、整理整頓を心掛け、施設ではなく普通の家庭と変わらない環境作りをしている。随時模様替えをし、家庭的な雰囲気を保つことで安心して快適に暮らせる空間を提供している。 季節の花や音を身近に感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係や相性などを考慮し、居間での座席配置に配慮したり、ソファーを使用したりして、それぞれが落ち着いて過ごせる空間，居場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人が在宅中に使われていた馴染みの家具や道具等を持ち込んでいただいている。 家具の配置も安全を考慮した上で、安心して生活できるようにしている。 好みのカレンダーを各居室に掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで、手すりの設置やネームプレート，目印の貼り出し、のれんを掛けるなどして安全や生活のし易さにつながるようにしている。		